



浦添市医師会報

The Journal of the URASOE Medical Association

秋号

Vol.95

2024 (令和6年)

pickup

第65回浦添市医師会定時総会

沖縄県医師会会長 田名 毅先生との懇談会

令和6年度(第26回)浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式

第32回浦添市医師会ボウリング大会

CONTENTS

- 01 第65回浦添市医師会定時総会
- 02 役員退任・就任挨拶
- 04 浦添市医師会役員紹介
- 05 二水会
7月「沖縄県医師会会長 田名 毅先生との懇談会」
- 07 令和6年度(第26回)浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式
- 20 浦添市医師会学術奨励賞規則改定
- 22 第32回浦添市医師会ボウリング大会
- 25 新開業紹介 てだこ浦西駅循環器・糖尿病クリニック 院長 福地 万里先生
- 26 入会・退会・異動報告
- 27 理事会報告
- 29 講演会・研修会等のご案内
- 30 事務局からのお知らせ
- 32 編集後記

浦添市医師会提供ラジオ番組
「ゆんたく健康トーク」出演予定

表紙の写真



～ 雨上がりの虹 ～

雨上がりに空を見上げると綺麗な虹がかかっており思わず写真をパチリ。

何度見ても綺麗だと思う虹は一体どのように出来ているのか調べてみると、太陽光が雨粒の中で反射と屈折して虹として見えるそうです。

何気なく見ていた虹ですが、そのでき方を知ることによって次に虹を見かけたとき、また違った見え方をすることもかもしれません。機会がありましたら、雨上がりの空を見上げてみてください。綺麗な虹がかかっているかも。

第65回 定時総会

日時:令和6年6月24日(月)19:00

場所:浦添市医師会事務局

第65回浦添市医師会定時総会が、6月24日(月)19時から浦添市医師会事務局にて開催された。

司会の藏下要副会長より、会員数254名のうち221名の委任状を含む出席による本総会成立と、上程された全ての議案について決議が可能との報告があり、開会が宣言された。

続いて洲鎌盛一会長の挨拶の後、議長の選出が行われ、議場に諮ったところ執行部案の洲鎌盛一会長が選出された。

- ・ 議決権のある当法人会員総数：254名
- ・ 総会員の議決権の数：254個
- ・ 出席会員数(委任状によるものを含む)：221名
- ・ この議決権の総数：221個

第65回浦添市医師会定時総会

- 1.開会宣言
- 2.会長挨拶
- 3.議長選出
- 4.議事

- 第1号議案 令和5年度(第32期)事業報告に関する件 (満場一致で承認)
- 第2号議案 令和5年度(第32期)決算報告に関する件 (満場一致で承認)
- 第3号議案 浦添市医師会定款の変更(一部改正)について (満場一致で承認)
- 第4号議案 浦添市医師会役員・裁定委員改選について (満場一致で承認)
- 第5号議案 定期預金の更新期間延長について (満場一致で承認)
- 第6号議案 その他

以上をもって議長より本総会の議事を終了した旨が述べられ閉会した。



議事の様子



銘苅晋先生、比嘉耕一先生お疲れ様でした!

役員退任のご挨拶

浦添総合病院 理事長 銘苅 晋



浦添市医師会の役員退任にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。

私が医師会の活動に参加するようになったのは山内英樹会長より浦添総合病院より理事を出していただきたいとお言葉をいただき、平成 22 年 4 月に浦添市医師会の理事に就任しました。当時は大多数の勤務医のように、医師会活動のことも十分理解しておらず、すべてが新鮮でした。その後、仲間清太郎会長、さらには池村剛会長、洲鎌盛一会長と一緒に仕事をさせていただき、池村剛会長 2 期目の平成 28 年 6 月より副会長に就任しました。14 年間の医師会活動では最初のころは検診事業や精度管理、副会長になってからは救急災害医療や医療安全・医事紛争などの担当をさせていただきました。その間、私にとって勉強になり良かった点は、様々な会に参加することができ、多くの人と面識ができたことで、それが一番の財産だと思います。今回、洲鎌会長が陣頭指揮で頑張っている間に、将来の浦添市医師会を担っていただく若く前途有望な先生方に医師会活動を引き継いでもらえるように退任させていただきました。

医師会活動に参加させていただいた歴代の会長はじめ、医師会事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。今後も浦添市医師会がますます発展していくよう一会員として協力させていただきます。14 年間ありがとうございました。

理事就任のご挨拶

平安病院 理事長 平安 明



この度浦添市医師会理事に就任いたしました平安明です。

私は平成 16 年に、当時浦添市医師会の会長であった山内英樹先生にお声掛けいただき、理事の末席に加えていただきました。最初は医師会が何をするとところなのかよくわからずに、諸先輩方の指導の下でその場その場の役割をこなすことで精一杯でした。平成 20 年に山内先生のご推薦で県医師会理事に就任しましたが、これまた全く何の知識もないままに医療保険の担当になり、四苦八苦して対応しているうちにいつの間にか現在に至ったという感覚です。

令和 6 年 6 月には洲鎌会長のご推薦を受け県医師会の副会長に就任し、田名新体制の下で県医師会にさらに関わっていくことになりました。浦添市医師会においては担当理事としての役割に加え、県医師会との連携を強固にするための役割が求められていると認識しています。自分に与えられた役割をしっかりと果せるように頑張っていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

理事就任のご挨拶

げんか耳鼻咽喉科 院長 又吉 宣



この度、浦添市医師会の理事に就任いたしました、げんか耳鼻咽喉科の又吉宣(またよしせん)と申します。当院は先代の源河朝博先生が 34 年前に開業され、2 年前に私が事業承継し 2 代目院長として診療を行っております。開業医としてはまだまだ未熟な状態なのですが気が付けば 50 歳を超えており、これからは自院のことだけでなく地域の役に立てるような仕事もやっていかねばと思っているところでした。

そんな中、理事就任のお話があり今回お引き受けさせて頂くこととなりました。浦添市医師会の先生方は皆フレンドリーでこの地で開業できてよかったと思っております。諸先輩方の期待に応えられるよう努力してまいります。

先輩理事の先生方、医師会の皆様にはご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

監事就任のご挨拶

嶺井第一病院 理事長 嶺井 聡



この度、監事に就任いたしました、嶺井第一病院の嶺井聡と申します。

私は平成 22 年に嶺井第一病院に赴任し、令和 3 年に医療法人大平会の理事長に就任しました。これまでは、業務多忙を理由に医師会活動にはほとんどかかわってきませんでした。洲鎌会長はじめ、浦添市医師会の皆様には大変お世話になってきました。特に新型コロナウイルス感染症の対応では、本当に助けて頂きました。

今回、監事就任のお声掛けがあり、少しでもお役にたてればと考え、お引き受けした次第です。若輩者ではございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

浦添市医師会 役員(理事・監事)・裁定委員のご紹介

第65回定時総会におきまして役員(理事・監事)の改選が行われました。新たに3名の先生が加わり、理事14名、監事5名の新執行部体制となります。末永くよろしくお願い申し上げます。(*任期は令和6年6月24日～令和8年6月の定時総会終了時まで)



会長(代表理事)
洲 謙 盛一
(牧港中央病院)



副会長(総務・学術・生涯教育担当理事)
宮 良 球 一 郎
(宮良クリニック)



副会長(医療事故・勤務医担当理事)
藏 下 要
(浦添総合病院)



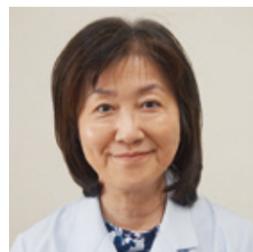
副会長(広報・会員親睦担当理事)
照 屋 徹
(ていーら整形外科)



医療・介護保険、老人保健担当理事
稲 福 徹 也
(稲福内科医院)



外国人診療、産業保健担当理事
山 本 和 儀
(山本クリニック)



学校保健担当理事
山 川 美 由 紀
(みゆき小児科)



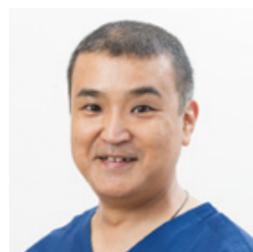
地域医療担当理事
大 瀨 篤
(にぬふあぶし診療所)



地域保健担当理事
島 尻 佳 典
(キンザー前クリニック)



情報・通信担当理事
比 嘉 明
(比嘉眼科)



小児保健担当理事
松 田 竹 広
(ありんクリニック小児科)



救急・災害担当理事
比 嘉 富 貴
(牧港中央病院)



福祉経営担当理事
平 安 明
(平安病院)



精度管理担当理事
又 吉 宣
(げんか耳鼻咽喉科)

<監 事>

平安 良雄 (平安病院)
上江洲 徹 (牧港中央病院)
知念 さおり (徳山クリニック)
山内 裕樹 (同仁病院)
嶺井 聡 (嶺井第一病院)

<裁定委員>

下地 克佳 (下地内科)
新里 誠一郎 (浦添総合病院)
比嘉 耕一 (ひがハートクリニック)

二水会

沖縄県医師会長 田名 毅先生との懇談会 「最年少の医師会長が目指す新しい医師会像について」

日 時: 令和6年7月3日(水) 19:00
場 所: 浦添市医師会事務局

副会長 藏下 要



今回の二水会は、この度、沖縄県医師会の新会長に就任された田名毅会長をお招きして、講演会・懇談会を開催いたしました。正式な就任式からわずか2週間足らずという時期にも関わらず、新会長を浦添市医師会へお招きして、このような形で講演会を開催できたことは、我々浦添市医師会会員にとって、大変嬉しいことでありました。田名会長に心より感謝申し上げます。貴重なご講演でしたので、私の方で印象に残ったところを要約させていただきます、ご報告いたします。

田名会長のご講演は、熱い想いのこもった、中身の濃い内容でありました。まず医師を志した中高生の時代のお話に始まり、今日の田名会長の医師としての信念の base となっている医学生時代や若いころの修業時代のお話から、現在の開業に至るまでの思いについてのお話がありました。開業医として地域社会に向けて様々な取り組みを進める中、「ひとりでやるより、みんなでやれば、大きなことができる」と一念発起して医師会活動に参加されたとのことでした。那覇市医師会、沖縄県医師会で活動の範囲を広げていかれました。主なものだけでも

- ①東日本大震災や能登半島地震における JMAT を通じた災害支援活動
- ②沖縄県医師会学術総会の活性化に向けた研修医部門の創設
- ③次世代育成に向けた様々な取り組み
- ④医療事故調査制度に対する支援の取り組み
- ⑤コロナ禍における行政と連携した迅速な対策の実施

などがあり、これらのご活躍をいろんなところで聞かれた会員の皆様も多いと思います。最後に新しい新執行部体制の紹介と今後の VISION について力強く語っておられました。多くの理事が若返り、実務担当重視の体制となっていることがよく分かりました。

講演の後は、参加者が田名会長を囲んで懇談、意見交換が行われました。気さくで丁寧な話しぶりは何も変わっていませんでしたが、話す言葉の一つ一つには、会長としての責任と重みを感じさせるものがありました。今回の会は、私たち浦添市医師会としても、この全国一若い新会長をみんなで支え、沖縄県医師会とともに、地域のそして沖縄県の医療環境をより良いものにしていきたいと改めて決意できる、いい二水会となりました。



田名毅沖縄県医師会長のご講演

令和6年度(第26回)浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式

令和6年7月17日(水)19:00

場所:浦添総合病院4階大ホール・ZOOM

座長:情報・通信担当理事 比嘉 明



令和6年度(第26回)浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式が7月17日(水曜日)開催されました。沖縄県では、コロナの感染拡大が蔓延して全国に先駆けてピークを迎えておりました。

今回の開催場所は医師会事務局ではなく、浦添総合病院の4階大ホールで行われました。駐車場も広いですし、会場もきれいで発表者以外の参加者も応援に駆け付け易い環境で大勢の参加者が来場されました。

宮良球一郎先生のZOOMでの挨拶で開会し、スムーズに進行することができました。10演題中9演題が現地発表できたことで、質疑応答も活発にできたと思われま。医療は、医師を中心にコメディカルのチームで運営されていることが伝わる内容になりました。

洲鎌盛一会長のご挨拶の後、表彰式、記念撮影を終えて久しぶりの懇親会が開催できました。院内の規定により、アルコール無しの懇親会でありましたが、他科、他院との交流の場が持てることで親睦につながられたと思います。

次年度の案内を最後にさせていただきます。この学術奨励発表は浦添市医師会所属の医療機関及び附属福祉・介護関連施設で令和6年度に発表した学術論文、学会や院内研究会の発表等を対象としております。時期が来ましたら演題募集の案内を致します。

今年度も残り半分となり、演題の発表、論文の投稿、研究会の研鑽を控えていることと存じます。その結果を是非とも来年の学術奨励賞に参加をお待ちしております。



会場からは多くの質問が寄せられました



懇親会の様子



田名毅沖縄県医師会会長、ご講演ありがとうございました!



宮良球一郎副会長による開会の挨拶



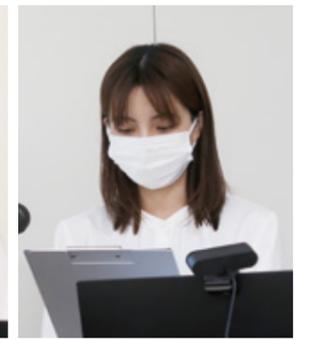
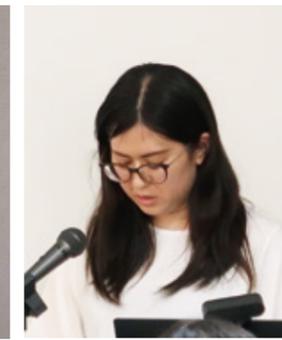
洲鎌盛一浦添市医師会会長の挨拶

令和6年度(第26回)浦添市医師会学術奨励賞受賞者

受賞者氏名・所属医療機関	演題
 浦添総合病院健診センター 臨床検査技師 山城 千裕	肝血管異常から発見された大動脈縮窄症の一例
 同仁病院 理学療法士 當間 琉妃	当院での人工股関節全置換術後患者の在院日数の違いによる患者背景と術後1週目の身体機能から早期退院に必要な因子
 徳山クリニック 看護助手 堀河 千秋	育成チームの取り組み～育成システムの構築～
 比嘉眼科 医師 石田 航	当院におけるCTR併用白内障手術例の後ろ向き検討
 牧港中央病院 事務 稲嶺 愛子	手技材料の査定に関する取り組み ～再審査請求復活への道のり～
 山本クリニック 医師 山本 和儀	思春期の心の健康教育の取り組みの現状と今後の課題 ～八重山諸島の一中学校での特設授業の前後のアンケート調査を踏まえて～
 浦添総合病院 薬剤師 岸本 卓	バンコマイシン等のTDMに関する加算取得向上に向けた取り組み
 同仁病院 薬剤師 赤嶺 聡彦	人工股関節または人工膝関節全置換術を受ける患者における静脈血栓塞栓症リスク評価モデルの検証
 徳山クリニック 看護師 小波津 久美子	透析時運動指導等管理加算算定に向けて当院での取り組み～運動療法継続するために～
 牧港中央病院 臨床検査技師 中村 美羽	超音波によるアブレーション治療後の穿刺部評価の現状および有用性について



座長の比嘉明先生



皆さんの発表にも熱がこもります



肝血管異常から発見された大動脈縮窄症の一例

浦添総合病院健診センター 検査課

○山城千裕 中村優花 赤嶺希 粟國徳幸 小島正久 臨床検査技師 医師

【はじめに】

2022年9月6日、当健診センター人間ドック受診の際、腹部超音波検査にて背景肝は正常であったが、肝門脈臍部付近に数珠状に拡張・蛇行する血管を認め、内部血流は動脈性で、モザイク状で、シャントを疑う所見であった。また、臍傍静脈の再開通、腹壁皮下の動脈の拡張も認めたため、浦添総合病院へ紹介となった。

＜受診時所見＞

48歳女性。BMI:正常で肥満無し。現病歴:高血圧治療中、血圧は収縮期128mmHg、拡張期61mmHg、自覚症状無し、飲酒:週3日1合未満、喫煙歴:無、既往歴:36歳より微小脳動脈瘤を経過観察中、43歳の時に卵巣腫大破裂で手術歴有。胸部X線:異常なし、心電図:rsr'パターンで心配なしであった。

2022年の9月29日、浦添総合病院消化器内科を受診し、腹部の造影CT検査を施行、胸壁から拡張した血管が肝臓に到達し、肝臓では門脈臍部周囲、内側区域(S4)にかけて拡張蛇行した血管を認めたが、腹部領域では原因は突き止められず、胸部CT検査を追加で施行した。

胸部CT検査では胸部下行大動脈部の狭窄がみられ、鎖骨下動脈などが側副血行路として著明に拡張していましたが、肺野・縦郭には著変なく、腹腔内臓器は正常に造影されていた。

胸部から腹部大血管の3D再構成画像では大動脈弓部直下で狭小化し、鎖骨下、内胸、肋間、腹壁動脈が側副血行路として著明な拡張を認めたため、大動脈縮窄症の診断となり、同年、2022年11月に、上行大動脈と下行大動脈のバイパス手術を施行された。

術後の経過は良好で、NT-proBNP281.

5pg/mlから159.2pg/mlと改善を認めた。

術後1年経過後に当健診センターにて人間ドックを受診されており、前回肝門脈臍部・S4に認めた数珠状血管の拡張蛇行は改善していた。

【考察】

本症例はドック受診時の通常検査でほとんど正常範囲内の判定であり、既往歴である高血圧の治療のみ行われていた。

2017年に卵巣破裂にて浦添総合病院を緊急受診し、腹部CT検査が施行されており、腹壁血管の拡張を認めていたが、救急受診でもあったため骨盤内病変のみの診断で、婦人科のある他院へ転送されそのまま放置となっていた。

当健診でも腹部超音波検査は2018年から毎年実施され、肝血管異常を指摘されていたが、2021年まで判定C(経過観察)で、要精査まで至っていなかった。

また、2021年には人間ドックを受診した際に胸部レントゲン検査を施行されていたが、心陰影の拡大なし、大動脈弓部が不明瞭であったが、大動脈縮窄症を疑う診断とはならなかった。

【結語】

今回、健診時の腹部超音波検査にて、肝血管異常が指摘され大動脈縮窄症という先天性奇形の診断に至ったが、無症状の成人から先天性血管奇形を疑い診断を導き出すのは非常に難しいと痛感した症例であった。今後肝硬変などが無いにも関わらず、門脈臍部や腹壁皮下、その他部位に数珠状、拡張蛇行する異常血管を認めた場合、稀ではあるが、大動脈縮窄症等の先天性血管奇形の可能性も念頭において検査を勧めていく必要があると思われる。

浦添総合病院健診センター検査課

当院での人工股関節全置換術後患者の在院日数の違いによる患者背景と術後1週目の身体機能から早期退院に必要な因子

同仁病院

○當間琉妃¹⁾ 山内裕樹²⁾ 立津統¹⁾ 喜名杏里¹⁾ 田本秀禎¹⁾

同仁病院 リハビリテーション科 理学療法士¹⁾ 整形外科²⁾

Key Words

THA 在院日数 身体機能

【目的】

当院は在院日数短縮に向けて術後早期からの理学療法を展開している。早期退院を目指すには、早い段階からの予後予測を行う必要がある。先行研究では、術前の予測因子の報告は多いが術後早期時点の報告は少ない。そこで本研究は、人工股関節全置換術(以下、THA)患者の在院日数の違いによる患者背景と術後1週目の身体機能から早期退院に必要な因子を予測し、検討したので報告する。

【対象と方法】

対象はR3年1月～R5年4月に当院で初回片側THAを施行された56名56股。重篤な合併症や施設退院した症例を除外。在院日数の中央値20.5日を基準とし、20日以下をA群、21日以降をB群と分類し、背景因子と術後1週目の身体機能を比較。背景因子は年齢、同居者の有無の2項目。身体機能は、TUG、10m歩行時間、股関節屈曲と外転可動域(以下、屈曲可動域・外転可動域)、股関節外転筋力(以下、外転筋力)、片脚立位時間、JOA scoreの7項目。外転筋力の測定にはHand-Held Dynamometerを使用し、体格差をなくすためトルク体重比(Nm/kg)を算出。

統計解析方法はMann-Whitney U検定を用い、さらに有意差を認めた項目に対して、重回帰分析を行った。有意水準は5%未満とした。

【結果】

A群とB群を比較した結果、TUG、10m歩行時間、外転可動域、片脚立位時間、外転筋力で有意差を認め、A群で良好な成績となった。その他の項目では、有意差を認めなかった。重回帰分析($R^2=0.40$, $P<0.01$)の結果、外転可動域($a1'=-0.31$)、TUG($a5'=0.30$)、10m歩行時間($a4'=0.24$)、片脚立位時間($a3'=-0.06$)、外転筋力($a2'=-2.78$)、の順に在院日数に影響する因子として抽出された。

【考察】

小口らは術後の外転筋力の強弱は歩行能力に及ぼす影響は大きいと報告。兵頭らは外転運動で高い筋活動を発揮するのに外転角度 20° が必要と報告、本研究においてA群 $22\pm 5.8^\circ$ 、B群 $17.1\pm 8.8^\circ$ という結果から、A群は外転筋力を発揮しやすい可動域の獲得が早かった。よって、歩行能力にも関係していると考えられ、関連因子として抽出されたと思われる。また、高木らは術後の歩行能力改善が在院日数の短縮の一因と報告し、本研究結果でもTUGと10m歩行時間で明らかな有意差を認めており歩行能力の改善が在院日数の短縮に繋がったと考える。

以上のことから、術後早期の理学療法では外転可動域改善を積極的に行い、筋力強化を実施し、歩行能力の改善を目指すことで在院日数の短縮に繋がる可能性があると考えられる。

【倫理的配慮】

本研究の目的及び方法に関して、ヘルシンキ宣言に基づいて十分に説明し同意を得た。

育成チームの取り組み ～育成システムの構築～

徳山クリニック血液浄化センター メディカルエイド科

○堀川千秋 富永千香子 親富祖加奈子 津波古真美 仲宗根海優 上地玲名
大城栄子 安村京子 外川志保 平川利枝 宮城洋子 加納美矢子 知念さおり

【目的】2018年に当科で教育マニュアルを構築した。2020年同時期に、複数の対象者(新人・育休復職者)が発生し、一対一での指導が困難となり、指導者3名と所属長による育成チームを立ち上げた。これまでの教育システムを見直し、育成システムへ変更したので報告する。

【育成チームの取組み】

1. 教育マニュアルの見直しのためのアンケート実施
2. スケジュール見直し
3. 育成日誌作成
4. 自己・指導者チェックシート見直し(振り返り)
5. 育成フローチャートの作成

【結果】

旧マニュアルで指摘された重複事項を見直し、新マニュアルでは79項目を64項目へ減らした。教育スケジュールは、育成担当者と基本期間項目を追加し、対象者にあったスケジュールが立てられるようになった。育成日誌を作成したことで、対象者の進み具合や引継ぎ事項など育成チームでの情報共有が出来た。またチェックシートの見直しでは、評価期間を新人者と復職者それぞれ設定したことで対象者の評価がスムーズに行えた。一連の育成プログラムをフローチャートにまとめた。

【まとめ】

複数の対象者に対応するため、育成チームを発足しマニュアルを見直した。

マニュアル見直しを通して指導者自身も自らの振り返りや気づきが得られたと感じている。今後は新たな指導者を育成することも視野に入れ、指導者同士で話し合いシステムに改善を加え活用していきたい。

当院におけるCTR併用白内障手術例の後ろ向き検討

比嘉眼科 ○石田航

【本文】

〈目的〉 当院では難症例の白内障手術の紹介が多く、水晶体囊拡張リング(capsular tension ring:以下CTR)の使用頻度が多い。そこで本研究では、CTRを挿入するに至った症例の背景因子や眼球形態を後ろ向きに検討した。

〈対象・方法〉 2021年11月～2023年5月の期間において当院でCTR併用白内障手術を施行した126眼を対象にした。CTRは縫着ホック無タイプ(CTR130A0, HOYA社)を挿入した。また、術中におけるチン小帯脆弱度は谷口らのZonular Weakness分類(以下ZW分類)に則り分類した。

〈結果〉 全126例の年齢の平均値±標準偏差は77.44±10.29歳であった。眼軸長と前房深度の平均値±標準偏差はそれぞれ23.49±1.50mmと2.44±0.51mmであった。統計解析では、年齢とともに前房深度が浅くなる相関を認めた(Pearsonの相関係数 -0.33, P<0.001)。また、前房深度が浅くなるにつれてZW分類が大きくなる相関を認めた(Spearmanの順位相関係数 $\rho=-0.27$, P=0.002)。

〈結論〉 本研究より、白内障手術において前房深度がより小さい例でチン小帯脆弱度が大きいことが示された。

手技材料の査定に関する取り組み —再審査請求復活への道のり—

牧港中央病院 医事課 ○稲嶺愛子 安里愛美

【はじめに】

当院では、年間800件ほどのカテーテルによる手術(PCI・ABL・デバイス植込・下肢PTA・シャントPTA)が行われている。その中で、手技や材料の査定が、増加傾向にあり、2021年度の査定分析の結果では、63件で、全体の7.8%となっていた。

そこで、査定による減額を防ぐため、臨床工学技士(以下CE)と連携し、査定された手技材料の再審査請求と、今後の査定減少に取り組んだのでその内容と成果について報告する。

【期間】

2022年4月～2023年3月

【活動内容】

1. 検討会実施、問題点の抽出

毎月の査定通知書を元に、査定材料を抽出し、検討会を実施した結果、以下の問題点が抽出された。

- ①症例や材料に関する知識不足(使用目的や適応)
- ②使用材料の過剰や不相当による査定
- ③消極的表記、専門用語・略語による査定
- ④保険者による審査の違い

2. 問題点に対する取り組み

①検討会以前は、詳記内容と使用した材料との照合のみ点検し請求を行っていたが、CEと検討会を行うことで、症例によって材料の使用目的が異なること、材料の適応部位があること、症例に対して材料の使用本数が決まっていること等、詳記内容と実際のカテーテル造影画像を併せて確認することで症例や材料に関する知識を深めることができた。それにより、査定に繋がりやすい要点を抽出できるスキルを身につけた。

②医師へ報告、過剰・不相当と判断された査定材料を請求復活させるため添付資料や使用目的を詳細に記載し、再度請求を行った。

③「通過困難」、「断念」等の消極的表記により、査定とつながる材料に関しては、記載内容を検討し、必要材料であることを詳細に記載することで査定を回避する工夫を行った。また、専門用語、略語については、日本語注釈をつけた上で再請求を行った。

④同材料、同請求に対し、国保・社保で審査が異なることもあったため、保険者ごとの請求可能な材料を見極め、その情報を医師と連携した。

【結果】

事前回避を行った結果、2022年度の査定件数は34件(3.9%)で、2021年度と比べ件数、比率共に減少した。

また、2021年度・2022年度の査定から53件の再審査請求提出し、そのうち25件が請求復活した。

【今後の課題】

これまでの査定結果を踏まえ、請求前に医師やCEへ報告、内容を検討し事前回避・改善すること、また、再請求するも現状通りとなった事例についても、再度検討し、もう一度、再請求を行い、査定減少へと繋げていく必要があることが挙げられた。

【まとめ】

今回、この取り組みを通してCEより、手術の手技や材料の使用目的・適応について、より詳細に説明を受けることで、手術の内容を具体的にイメージできるようになり、スキルアップに繋がった。これは、医事課職員だけでは得られない知識であり、今回、この取り組みにより、CEとの連携がより良い成果に繋がったと考えられる。今後も、査定内容が異なる事例や基準の改訂等が見込まれるため、日々の情報収集や、医師への声かけ、周知を継続し、査定減少、収益増加に繋がるよう取り組んでいく必要がある。

思春期の心の健康教育の取り組みの現状と今後の課題 ～八重山諸島の一中学校での特設授業の前後のアンケート調査を踏まえて～

山本クリニック

○山本和儀 石原綾子 國生まゆみ

精神疾患の生涯有病率は20.3%と報告されており、5人に一人が罹患する身近な病気であり、最近の疫学研究のメタ解析によると14歳までに34.6%、18歳までに48.4%が発症すると言われている。また若年者では最大の死因が自殺であるが、精神疾患についての教育は、2022年4月に高校の保健体育でようやく始まったばかりである。沖縄県保健医療部健康長寿課と沖縄県医師会による次世代の健康教育推進事業では、心の健康教育副読本『こころのタネ』を作成して、中学生を対象に2015年から事業を展開しており、2022年には副読本がデジタル化され、活用しやすくなったと考えられる。今回は、副読本を活用した心の健康づくりに関する特設授業の実践と参加した生徒を対象にした授業の参加前後のアンケート調査の結果について報告する。受講対象の生徒(中学1年～3年生)37人中34人から結果が得られ、こころの健康への関心、理解度などに、授業参加により一定の変化が見られた。県民のメンタルヘルスリテラシーが高まり、生涯有病率が低減することが期待される。

バンコマイシン等のTDMに関する 加算取得向上に向けた取り組み

浦添総合病院 薬剤部 医事課

○岸本卓 池城成恵 親富祖翔太郎 東千夏 平田やよい 浜元善仁
友利豪 安里亮

【緒言】

薬物療法において治療域と中毒域が近接している薬剤が薬物血中濃度モニタリング(以下、TDM)の対象となる。これらの対象薬は、採血した濃度を基に投与量を設計することで月に一度「特定薬剤治療管理料1(470点)(以下、管理料)」を保険請求することができる。また、初回採血の月にはこれに加えて280点の加算が可能であり、さらにバンコマイシンを二回以上濃度測定した場合のみ280点の代わりに530点の加算が可能となっている。

【目的】

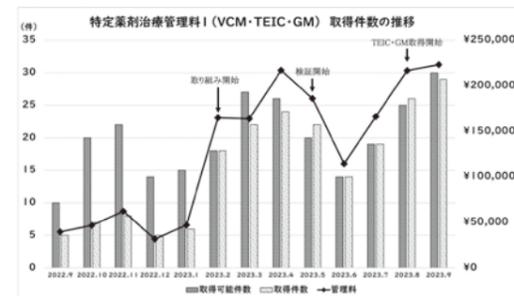
当院でもこれまで、バンコマイシンの採血があった際、診療報酬に基づき管理料を取得してきたが、取得に対して統一した基準がなかったため、管理料取得率は約40%にとどまっているのが現状であった。また当院においてはバンコマイシンのTDMについて、医師と薬剤師が連携して用量設定を行う仕組みが整っており、バンコマイシン TDM における管理料取得向上を目的とした取り組みを開始したので報告する。

【方法】

薬剤師は、バンコマイシンの投与量について協議した医師名をカルテ記載することで統一した。また、バンコマイシン TDM に関するカルテ記録を共通のテンプレートを用いて記載することで、医事課職員が把握しやすい体制を整えた。2023年2月から上記方法で算定取得を開始し、同年5月以降は薬剤部で抽出したバンコマイシンの処方歴と、医事課提出の管理料取得一覧と照合し、毎月検証を行った。月毎に生じた課題に対しては医事課と薬剤部で改善策を講じた。さらに、同年8月よりテイコプラニンとゲンタマイシンも取り組みの対象薬剤に追加して取り組みを継続した。

【結果】

取り組み開始前(2022年9~2023年1月)は平均取得件数6件、平均取得率(取得件数/取得可能件数)39±6%であったのに対し、取り組み開始後(2023年2~2023年9月)は平均取得件数22件、平均取得率98±8%で推移している。管理料は、取り組み開始前は平均で毎月4.5±1万円であったのに対し、取り組み開始後は毎月16.5±2.8万円に推移している。



また、取り組み開始当初(2023年2~4月)は算定相違件数が月平均10件であったのに対して、5月に検証を開始して以降は減少し、現在は月に1件以下で推移している。

【考察】

TDM 記録を統一したことで医事課担当者が管理料該当について把握しやすくなったこと、また毎月検証と対策実施を試みたことで、取得率の上昇や取得に関する相違の減少に繋がったと考えられる。今回は加算取得向上に向けた業務改善に関する取り組みであったが、臨床的な効果に関しても評価することが課題の一つである。

【結語】

医師との連携により医療の質を向上させるとともに、医事課との連携で病院経営における安定した管理料取得に繋がることができた。今後は本取り組みの維持・継続とともに、バンコマイシンの早期評価に有効なピーク値採血を標準的に行えるような仕組みづくりも進めていきたい。

人工股関節または人工膝関節全置換術を受ける患者における 静脈血栓塞栓症リスク評価モデルの検証

同仁病院 ○赤嶺聡彦

北里大学病院 高平尚伸 黒岩政之 富澤淳

【はじめに】北里大学病院の静脈血栓塞栓症(VTE)予防ワーキンググループは、入院患者のVTE発生リスクレベル(リスクなし、弱、中、高、最高)を評価し、リスクレベルに基づいたVTE予防法の判断を支援する臨床判断支援システム(Computerized Clinical Decision Support System; CCDSS)を2012年4月に開発し、全入院患者を対象として運用を開始した。CCDSSは手術前の患者に対して術式のVTE発生リスクと、患者の個別の危険因子に応じて設定したスコアの合計(TRS:Total Risk Score)でVTE発生リスクレベルを評価する。しかし、これまでにCCDSSにおけるVTE発生リスクレベルとVTE発生率の関連性は検証されていない。

【目的】人工股関節全置換術(THA)または人工膝関節全置換術(TKA)が実施された患者において、VTE発生リスクレベルおよびTRSと入院中のVTE発生率の関連性を検証した。

【方法】本研究は、北里大学医学部・病院倫理委員会の承認後に開始された北里大学病院での単施設後方視的観察研究である(承認番号:B20-324)。対象は2013年4月1日から2018年8月31日までの期間でVTE発生リスクレベルが評価されたTHAまたはTKA実施患者とした。VTE発生リスクレベルおよびTRSとVTE発生率の統計学的な比較は、カイ二乗検定およびHolm法で評価し、VTE発生リスクレベルおよびTRSとVTE発生の統計学的な傾向は、Cochran-Armitage検定で評価した。すべての検定は両側検定とし、 $p < 0.05$ を統計学的に有意とした。

【結果】1,098名が対象となり、VTEの発生率は11.7%($n=128/1,098$)であった。THA患者の6.3%($n=50/789$)、TKA患者の25.2%($n=78/309$)にVTEが発生した。VTE発生リスクレベルが最高リスク群は高リスク群に比べてVTE発生率が統計学的に有意に高かった(オッズ比2.4; 95%信頼区間1.2-5.5; $p=0.01$)。TRSが4以上の患者群はTRSが2~3(オッズ比1.8; 95%信頼区間1.2-2.7; $p=0.003$)または-1~1(オッズ比3.3; 95%信頼区間1.6-7.7; $p < 0.001$)の患者群に比べてVTE発生率が統計学的に有意に高かった。VTE発生リスクレベルの上昇およびTRSの増加に伴い、VTE発生率が上昇する傾向が示された($p=0.0043$ および $p < 0.001$)。

【考察】VTE発生リスクレベルの上昇によりVTE発生率が上昇することが示されたので、最高リスクレベルの場合には、VTE予防策を医療チーム内で共有し、適切な予防法を実施する必要がある。また、TRSの増加に伴いVTE発生率が上昇することが示されたので、VTE発生リスクレベルが同じ場合でもTRSが高い患者では、患者の臨床症状の変化の確認を強化すると共に、VTE発生時の初期症状や対処方法について医療チーム内で共有し、VTEの発生予防に注力する必要がある。

【結論】THAまたはTKA後のVTE発生率は、CCDSSにおけるVTE発生リスクレベルの上昇およびTRSの増加に伴い上昇することが示された。

本研究の詳細はこちらから→



透析時運動指導等管理加算算定に向けて当院での取り組み ～運動療法継続するために～

徳山クリニック血液浄化センター

○小波津久美子 新城尚美 平良誠 宮城洋子 加納美矢子
徳山敦之 熊代理恵 知念さおり 徳山清之

【はじめに】当院では、2013年より透析時運動療法を提供している。2022年の診療報酬改定により透析時運動指導等管理加算 75 点が算定できるようになった。加算取得に向けて当院での取り組みや実施方法と、運動を継続するための工夫や中断者の再開に関する取り組みも併せて報告する。

【方法】透析時運動指導等管理加算の内容把握のため講習会に参加。第1～3回腎臓リハビリテーションガイドライン講習会において医師3名、看護師12名が受講証を取得。また運動毎の記録を簡素化するためテンプレートを作成し、直接患者支援に当たるスタッフとの連携を円滑にするためチェック用紙を作成し、活用方法をスタッフへ指導した。透析1クールあたり3～5名程度の患者を選出し算定、90日を終える頃に再度選出するという流れを作った。運動療法の評価として体力測定、フレイル調査、IN-BODY測定を行っている。

【結果】運動療法実施中の患者 50 名中42名の加算が可能となった。

【まとめ】15名のスタッフが受講証を取得した事で、どの時間帯の患者へも対応できる体制が整った。また加算への取り組みの過程で、運動チーム以外のスタッフにも運動療法が透析治療の一環であるという意識作りのきっかけとなり、透析患者のサポートに繋がったと思われる。患者だけでなくスタッフのモチベーション維持の重要性を再認識した。さらに中断者の再開や新規へのアプローチに繋がりたい。

超音波によるアブレーション治療後の 穿刺部評価の現状および有用性について

牧港中央病院 検査室 ○中村美羽

<はじめに>

当院は不整脈治療の専門病院として数多くの電気生理学的検査・アブレーション(以下 ABL)治療を実施しているが、これらの検査・治療後、穿刺部の止血が不完全な場合には、血腫や仮性動脈瘤、動静脈瘻等の合併症が発生することがある。当院では ABL 治療後に超音波にて鼠径穿刺部の出血確認を実施しており、2020年8月よりクリニカルパスにも組み込まれている。今回、当院で ABL 治療後に施行した大腿エコーの現状を調査し、その有用性について検討したので報告する。

<対象・方法>

対象は 2019年1月から 2022年12月にかけて当院で ABL 治療後に大腿エコーを施行した 821 例(男性 505 例、女性 316 例、年齢 12～93 歳:平均 61 歳)で、大腿エコーの実施率を年別で算出し、また同エコーで検出された穿刺部合併症のうち、より重篤で早期治療が必要となる仮性動脈瘤の発生頻度や治療内容、治療後の入院期間について調査した。

<結果・考察>

ABL 治療後の大腿エコー実施率は表の通りで年々増加していた。対象期間における ABL 治療後の仮性動脈瘤発生件数(発生率)は 11 例(1.0%)で、文献で報告のあった鼠径部穿刺後の仮性動脈瘤発生率 2.9(0.2～5)%と比較すると、年別にみてもその範囲内にあり、当院の治療後の止血手順は一定の水準に保たれていることが推察された。

仮性動脈瘤の治療内容の内訳は、圧迫法 5 例、トロンビン注入法 5 例、外科的治療 1 例であった。また、11 例中 5 例で自覚症状がなく、症状を契機とした検査依頼では発見が遅れていた可能性があり、大腿エコーのルーチン化には一定の効果があったと考える。入院期間に関しては、穿刺部トラブルがなかった場合、治療後 1～2 日で退院となっていたが、仮性動脈瘤を合併した場合は、退院までに 3 日～12 日(平均 5.8 日)要していた。穿刺部合併症は、その発生率は低いものの治療に難渋することも少なくない。患者にとっても痛みやベッド上安静が続く等かなりの負担となり、また入院期間の延長は経営面での不利益となるため、治療後の大腿エコーは穿刺部合併症の早期発見、早期治療につながり臨床上有用と考える。

浦添市医師会 学術奨励賞規則改定

昨年来より改定作業を行ってまいりました「学術奨励賞規則」につきまして、今年6月の定例理事会において承認され、同日施行されました。

今回の改定は、24年前(平成10年)に策定されて以降はじめての改定となり、より現行の運用方法に則した内容へリニューアルされました。

来年度(令和7年)の学術奨励賞発表会より運用となります。浦添市医師会員の先生方ならびにメディカルスタッフの皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

浦添市医師会 学術奨励賞規則

第1章 総則

第1条 この制度は保健・医療・福祉の進歩に呼応して、日常臨床の健全な普及発展を促し、医師会会員と所属するメディカルスタッフの医療技術の向上、相互親睦、地域・医療連携の促進および地域住民の健康増進に貢献することを目的とする。

第2条 前述の目的を達成するため、県内・県外で行われた学会・研究会での優秀な発表者に対して奨励金を授与する。

第2章 選考委員

第3条 学術奨励賞の選考にあたっては、学術・生涯教育担当理事が中心となり、担当理事が選任した浦添市医師会会員医師3名から4名をもって構成し、会長が承認した者。

第3章 申請者の資格

第4条 学術奨励賞の申請を行う者は、下記の条件を満たす者であること。

- ・浦添市医師会に所属する会員医師。
- ・浦添市医師会に所属する会員施設で従事するメディカルスタッフ。
- ・その他、選考委員が妥当と認めた者。
- ・同一施設からの申請は2名以内とする。

第4章 学術奨励賞の決定

第5条 学術奨励賞を希望する者は、下記に定める申請書類を添えて、浦添市医師会事務局へ提出するものとする。

- ・申請書(発表学会または研究会名、発表年月日、演題名、抄録等)

第6条 選考委員は、申請書類を審査し、多くのメディカルスタッフに発表の機会を与えることを旨として受賞者の決定を行い、理事会において報告する。

第5章 学術奨励賞受賞者の義務

第7条 学術奨励賞受賞者は、浦添市医師会学術奨励賞発表会での発表ならびに浦添市医師会報へ発表内容の掲載を行う。尚、やむを得ない事情により発表会当日に会場への参加が困難な場合には、事前に事務局へ申し出た上で、ZOOM等での参加(当日質疑応答が可能な状態にすること)を認める。

第8条 発表者は、その発表に際して会のスムーズな運営に協力すること。

第6章 実務

第9条 受賞者には奨励金として金一封を贈呈する。

第10条 事務的、経理的な実務については、浦添市医師会事務局が担うこととし、この規則に定めるものの他、会のスムーズな運営のために必要な事項は学術・生涯教育担当理事と事務局で細則を定め、理事会で承認を得る。

第7章 規則の改廃

第11条 この規則の改廃は、理事会の承認を経なければならない

附則

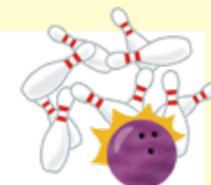
この規則は、平成10年4月1日から施行する。

この規則は、令和6年7月一部改正。同7月16日理事会承認を経て同日から施行する。



第32回浦添市医師会ボウリング大会

第32回浦添市医師会ボウリング大会 順位表



令和6年8月9日(金)19:00

場所:てだこボウル

副会長 照屋 徹



浦添市医師会における夏の行事として恒例のボウリング大会をてだこボウルにて開催いたしました。

今年は9施設より全10チーム、50名の参加がありました。平成25・26年頃には100名近い参加者がいたとのことですが、コロナ禍を経て未だに参加人数が回復していないことは寂しいかぎりです。

今回は蔵下要副会長の開会挨拶の後、前年度男子第1位の上原優樹(比嘉眼科)さんに始球式を務めていただきました。各チーム個々の特色がありましたが、いずれのチームも職場での絆の強さを感じられました。結果は団体優勝かりまた内科医院、準優勝が高宮城皮フ科、第3位は前年度優勝の名嘉村クリニック。男子部門の優勝は又吉努さん(牧港クリニック)、準優勝は比嘉健太さん(牧港中央病院)、第3位仲宗根好孝さん(嶺井第一病院)でした。女子部門の優勝は幸地うるまさん(かりまた内科医院)、準優勝は仲村尚子さん(高宮城皮フ科)、第3位は知念牧子さん(高宮城皮フ科)でした。

今回もコロナ第11波を考慮して懇親会は行いませんでした。感染者数は徐々に前回のピークより落ち着いてきていることから、来年度には懇親会が復活できるのではないかと考えております。来年度のボウリング大会は令和7年8月15日(金)に予定しておりますので、多数のご参加をお待ちしております。



司会の照屋徹副会長



蔵下要副会長の挨拶



比嘉眼科の上原優樹さんによる始球式

団 体	優勝	かりまた内科医院
	2位	高宮城皮フ科
	3位	名嘉村クリニック
男 子	1位	又吉 努 (牧港クリニック)
	2位	比嘉 健太 (牧港中央病院)
	3位	仲宗根 好孝 (嶺井第一病院)
女 子	1位	幸地 うるま (かりまた内科医院)
	2位	仲村 尚子 (高宮城皮フ科)
	3位	知念 牧子 (高宮城皮フ科)
ラッキー7賞	7位	知念 牧子 (高宮城皮フ科)
当月賞	8位	仲里 政泰 (名嘉村クリニック)
大会賞	32位	新屋 みゆき (徳山クリニック)
ブービー賞	49位	多和田 倫也 (牧港クリニック)
敢闘賞	50位	仲村 麻香 (牧港中央病院)
とび賞	9位	幸地 一成 (かりまた内科医院)
	18位	徳原 勇人 (名嘉村クリニック)
	27位	豊見本 杏里 (浦添市医師会)
	36位	津島 文康 (介護医療院にしぼる)



新開業紹介

ただこ浦西駅循環器・糖尿病クリニック 院長 福地 万里



はじめまして。

令和6年7月、浦添市西原で開院した「ただこ浦西駅 循環器・糖尿病クリニック」の院長、福地万里と申します。

私は埼玉県、富山県で生まれ育ち、琉球大学に入学しました。1994年に卒業、第二内科に入局し大学病院、那覇市立病院、大道中央病院で研修し、代謝内分泌学を専攻、大学院に進学しました。

大学院では現在福島県立医科大学糖尿病内分泌代謝内科学講座主任教授、同健康増進センター長の島袋充生先生のもとで研究を行い、キンザー前クリニックの島尻佳典先生にも同じグループでご指導いただきました。大学院卒業後は主人の転勤に伴い宮古診療所で勤務し、産休・育休後に本島で子育てをしながら非常勤勤務をはじめました。開業前は首里城下町クリニックで15年、ハートライフクリニックで10年、糖尿病の専門外来をさせていただきました。

子育て卒業間近なタイミングに、縁あってこの浦添の地で仕事をさせていただきます。クリニックのある浦添市西原はただこ浦西駅を中心に、整備されている途中でどんな街になるのか私も楽しみにしているところです。今後は個々の患者さんに最適解の治療を提案できるよう、学術的にも人間的にもスタッフと共に学び続けていきたいと思っています。

糖尿病のみならず健康の根幹となる食事、運動などの生活療法もしっかりささえられる、患者さんに寄り添い安心してもらえるクリニックを目指していきます。近くの浦添総合病院や周囲の先生方のお力をお借りすることになると思います。ご支援、ご指導よろしくお願いたします。



クリニック外観



待合室



院内



団体優勝のかりまた内科医院のみなさん



団体2位の高宮城皮フ科のみなさん



団体3位の名嘉村クリニックのみなさん



男女1位の又吉さん、幸地さん



男女2位の仲村さん、比嘉さん



男女3位の仲宗根さん、知念さん



入会・退会・異動報告（令和6年5月～8月理事会）

入 会			
氏 名	医療機関名	診療科目	入会年月日
新垣 廉	浦添総合病院	救急科	R6.4.1
宮里 駿也	浦添総合病院	麻酔科	R6.4.1
高 子蕊	浦添総合病院	臨床研修医	R6.4.1
齋藤 将吾	浦添総合病院	臨床研修医	R6.4.1
泉 源	浦添総合病院	臨床研修医	R6.4.1
東上里 康司	名嘉村クリニック	内科	R6.4.1
櫻井 俊彰	浦添総合病院	内科	R6.4.1
友利 大希	浦添総合病院	救急科	R6.4.1
西明 晃太	浦添総合病院	循環器内科	R6.4.1
玉城 智聡	浦添総合病院	救急科	R6.4.1
北川 結惟	浦添総合病院	臨床研修医	R6.4.1
佐橋 実佳	浦添総合病院	臨床研修医	R6.4.1
東 隆良	浦添総合病院	臨床研修医	R6.4.1
佐久間 隆弘	浦添総合病院	麻酔科	R6.6.1
松本 いち子	にぬふあぶし診療所	呼吸器内科、内科	R6.6.1
金城 健	浦添総合病院	消化器内科（胃腸内科）	R6.6.13
福地 万里	てだこ浦西駅循環器・糖尿病クリニック	糖尿病内科、循環器内科	R6.7.1
宮良 美代子	宮良クリニック	乳腺外科、産婦人科、外科	R6.8.20
後藤 大智	てらすクリニック	内科、精神科	R6.9.1

異 動			
氏 名	医療機関名	異動事由	異動年月日
松田 竹広	ありんクリニック小児科	法人化	R6.5.1
譜久山 滋	ありんクリニック小児科	法人化	R6.5.1
大濱 篤	にぬふあぶし診療所	施設所在地変更、施設名称変更	R6.5.1
神山 琢朗	かみやま皮フ科	現住所変更（転居）	R6.5.23
澤岬 安教	嶺井第二病院まちなと	施設名称変更	R6.5.27
渡嘉敷 秀夫	嶺井第二病院まちなと	施設名称変更	R6.5.27
並里 俊	嶺井第二病院まちなと	施設名称変更	R6.5.27
東 幸子	東産婦人科クリニック	病床数変更	R6.6.1
福本 泰三	浦添総合病院健診センター	会員区分変更、管理者変更	R6.6.1

退 会			
氏 名	医療機関名	退会事由	退会年月日
赤嶺 宏太	浦添総合病院	退職	R6.3.31
入江 拓	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
石井 守	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
今井 貴浩	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
五十嵐 公一	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
内間 庸文	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
小渡 由菜	浦添総合病院	退職	R6.3.31
小原 有賀	浦添総合病院	退職	R6.3.31
大嶺 幹	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
塚原 悠河	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
照喜名 従真	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
中谷 太	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
波津 和那	浦添総合病院	医師会の異動	R6.3.31
山本 慎太郎	浦添総合病院	退職	R6.3.31
小島 正久	浦添総合病院健診センター	退職	R6.5.31
平良 雅裕	嶺井第一病院	退職	R6.5.31
上門 あきの	牧港中央病院	退職	R6.7.31
東 幸子	東産婦人科クリニック	閉院	R6.7.31

理事会報告（令和6年5月～8月）

令和6年5月20日（月）19:00

1. 入会・退会・異動報告
2. 行事・委員会等参加報告
 - ・令和6年度第1回外国人医療対策委員会について
 - ・令和6年度第1回浦添市自殺対策推進専門部会について
 - ・浦添市子宮頸がん検診受託施設意見交換会について
3. 令和6年度各種表彰候補者決定について
4. 第65回定時総会について
5. 田名毅先生（沖縄県医師会次期会長）との懇談会について
6. 令和6年度（第26回）浦添市医師会学術奨励賞について
7. 学術奨励賞規則改訂について
8. 第25回うらそえ市民公開講座について
9. 承認事項
 - ・「第31回日本航空医療学会総会・学術総会」寄付金について
10. 案内事項
 - ・「那覇・浦添地区における認知症の早期診断と連携を考える会」（当会后援）について
 - ・「浦添市CKD・糖尿病性腎症対策講演会～うらそえ腎腎プロジェクト」について

令和6年6月17日（月）19:00

1. 入会・退会・異動報告
2. 浦添市CKD・糖尿病性腎症対策講演会～うらそえ腎腎プロジェクト～について
3. 役員改選について（報告）
4. 第65回定時総会について（案内）
5. 二水会（田名毅沖縄県医師次期会長）との懇談会について
6. 令和6年度（第26回）浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式について
7. 学術奨励賞規則改訂について
8. 第25回うらそえ市民公開講座について
9. 報告事項
 - ・九州厚生局長との情報交換会（6月12日）について
 - 指導医療官募集（九州厚生局沖縄事務所）
 - マイナ保険証の利用促進について
10. 承認事項
 - ・令和6年度浦添市社会福祉協議会会費納入について
 - ・令和6年度浦添市観光協会会費納入について
11. その他
 - ・新型コロナウイルス感染症の流行状況について

令和6年7月16日（火）19:00

1. 入会・退会・異動報告
2. 令和6年度浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式について
3. 学術奨励賞規則改訂について
4. 浦添市医師会ボウリング大会について
5. 浦添市医師会糖尿病医療連携体制推進講演会について
6. 第25回うらそえ市民公開講座について
7. 新型コロナウイルスワクチン定期接種について
8. 地区医師会連絡協議会について
9. 理事会の開催日時について
10. 沖縄県医師連盟執行委員の選出について
11. 承認事項
 - ・浦添てだこまつり協賛金について
 - ・令和6年度浦添市ボランティア連絡協議会会費納入について
 - ・東京ヤクルトスワローズ浦添協力会会費納入について
12. その他
 - ・東産婦人科クリニック（東幸子先生）の閉院について（7月末を以って閉院）
 - ・秋のゴルフコンペについて（案内）

令和6年8月19日（月）19:00

1. 入会・退会報告
2. 会議・委員会等参加報告
 - ・令和4年・5年度日本医師会外国人医療対策委員会報告について
 - ・沖縄県医師国民健康保険組合第101回組合会について
 - ・令和6年度第1回臨床検査制度管理委員会について
 - ・令和6年度第1回医療機能分化検討会議について
3. 浦添市医師会糖尿病医療連携体制推進講演会について
4. 第25回うらそえ市民公開講座 ドキュメンタリー映画「ケアを紡いで」について
5. 第65回浦添市医師会ゴルフコンペについて
6. 地区医師会協議会の課題について
 - ・協議会について
 - ・担当地区からの報告について
7. 理事会の開催日時に関するアンケート集計結果について
8. 沖縄県における新型コロナウイルス外来診療の充実化に向けた協力依頼について
9. おきなわ津梁ネットワーク利用料金の改訂（予定）について
10. 承認事項
 - ・子宮頸がんから女性を守る市民公開講座（沖縄県産婦人科医会）共催依頼について
 - ・かかりつけ医のための心不全セミナー～病診連携 Up to Data～（小野薬品工業・アストラゼネカ株式会社）
11. その他（情報提供など）
 - ・くに整形外科（國吉眞也先生）の閉院について（8月末を以って閉院）

講演会・研修会等のご案内

予定が変更になることもございます。ご了承ください。

日 時	講演会・研修会・行事名	場 所	講 師	日医生涯教育制度 カリキュラムコード
9/12(木) 18:00	第25回 うらそえ市民公開講座	アイム・ユニバース てだこホール大ホール	ドキュメンタリー映画「ケアを紡いで」 I 部：映画上映 II 部：トークディスカッション 進 行：照屋 徹先生 (浦添市医師会副会長) 登壇者：松本 哲治浦添市長 藏下 要先生(浦添市医師会副会長) 宮島 真一氏(シアタードーナツ・オキナワ代表)	—
9/22(日) 07:24	第65回 浦添市医師会ゴルフコンペ	琉球ゴルフ倶楽部	—	—
10/12(土) 18:00	第63回地区医師会連絡協議会	ラグナガーデンホテル	—	—
10/13(日) 07:12	第63回地区医師会連絡協議会 親睦ゴルフコンペ	琉球ゴルフ倶楽部	—	—
11/20(水) 19:00	第156回 浦添市医師会学術講演会	浦添市医師会・ZOOM	調整中	調整中
12/11(水) 19:00	浦添市医師会忘年会	ラグナガーデンホテル	—	—
R7年 1/15(水) 19:00	第157回 浦添市医師会学術講演会	浦添市医師会・ZOOM	調整中	調整中
2/10(月) 19:00	浦添市医師会旧正新年会	調整中	調整中	調整中

※浦添市在宅医療ネットワーク世話人会は毎月開催しております。詳細が決まり次第ご連絡申し上げます。

年賀状廃止についてのお知らせ

この度本会では、自然環境負荷軽減や近年のデジタル化推進を鑑み、本年を一つの区切りとしてこれまでお送りしておりました年賀状によるご挨拶を控えさせていただくことといたしました。

本会および本会職員宛への年賀状のお心遣いはどうかご無用に願いたくご案内方々お願い申し上げます。

誠に勝手なお願いで恐縮でございますが、ご理解いただきますとともに、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

事務局からのお知らせ

浦添市医師会ホームページ掲載情報について

浦添市医師会ホームページでは会員医療機関の診療時間などを掲載し、広く情報公開をしています。令和3年3月よりホームページが新しくなりました。診療時間、受付時間、診療科目の変更・追加などがある時は、浦添市医師会事務局へご一報下さいますようお願いいたします。

浦添市医師会事務局

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362
E-mail:info@uraishi.or.jp http://www.uraishi.or.jp

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー 専用電話番号のご案内

浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしーの専用電話番号を設置しています。在宅医療・介護等についてのご相談はこちらの番号へおかけ下さい。FAXでのご相談の場合は、これまで通り浦添市医師会と共有です。

うらっしー専用電話番号 TEL:098-894-2698

弔事に係るご連絡について(お願い)

浦添市医師会では浦添市医師会運営規定に基づき、会員並びに会員の一親等以内の親族の方が亡くなられた際は、供花、香典と共に新聞に弔慰広告を掲載し、弔意を表すこととなっております。

供花等を供する際の必要事項を記入する様式を備えておりますので、そのようなときは浦添市医師会へお電話にてご連絡下さい。

浦添市医師会 TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362
沖縄県医師会 TEL:098-888-0087 FAX:098-888-0089

浦添市医師会報へ掲載する表紙写真・会員寄稿 病院だより・診療所だより等のご寄稿を募集しております

本会では会報を年3回発行しており、よりおもしろく、よりにためになり、親しみのある紙面作りをめざしています。

会報の表紙を飾る写真の投稿、随筆、書評、趣味の話・・・など、先生方の多岐にわたるご寄稿をお待ちしております。

浦添市医師会報誌面を活用し、会員間、病院一診療所間の交流や各施設の情報提供などを目的として「病院だより」「診療所だより」のコーナーを設けております。お知らせ等お気軽にご寄稿いただけますと幸いです。

原稿は随時募集しておりますので、メールまたは郵送にて浦添市医師会あてお送りくださいますようお願いいたします。

メディカルスタッフの皆様にも、本会会報へのご投稿について、どうぞお声かけ下さいますようお願いいたします。

寄稿仕様

①表紙の写真

写真タイトル・表紙のことは(簡単な説明)・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、浦添市医師会あてメールまたは郵送にてお送り下さい。

②随筆・書評・趣味の話・その他

タイトル・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、日常診療のエピソード、紀行文、書評、趣味などお気軽にご寄稿下さい。

③病院だより・診療所だより

タイトル・投稿者の医療機関名・氏名・連絡先を明記のうえ、ご投稿ください。お知らせや診療についてのご案内等お寄せください。

※メールでお送り下さる場合は、件名に「浦添市医師会報寄稿」とご入力下さい。頂きましたご連絡先は、校正等のご連絡に使用させていただきます。

★会報に関する問い合わせ先★

浦添市医師会事務局 〒901-2132 浦添市伊祖3-3-1 アルマーレ101
TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362
Email:info@uraishi.or.jp

編集後記

本号が皆様の手元に届く頃は日の入りが早くなり、冬の訪れを感じておられるのではないのでしょうか。

前回の編集後記ではベースアップ評価料加算(以下評価料)について、算定するか悩ましいとお書きしました。しかし、日本医師会常任理事の長島公之先生のご講演では、全施設漏れなく算定していただきたいとのことでした。算定する施設が少ない場合、医療機関は十分な収入が得られていると国に判断され、次回の診療報酬改定の際に悪影響を及ぼす可能性が高くなります。会員の皆様が懸念されている事として、診療所からの持ち出しが発生するのではないか、あるいはいつまで続くのか(いつ切られるのか)分からないなど幾つかあるかと思えます。同理事によれば、施設の原資から持ち出しする必要はなく、評価料で得られた全てを職員へ還元すれば良いこと、また評価料はすぐになくなることは無いという見解でした。日医 HP のメンバーズルームには分かりやすい評価料算定方法の動画がありますし、ご自身では難しいとお考えの場合、コンサルタントを利用(有料)する方法もあります。当会会員の皆様には、是非算定していただき、職員給与の改善にお役に立てていただきたいと思えます。

さて、本号では定時総会報告に始まり、退任および新任役員の挨拶となります。銘苅晋先生、比嘉耕一先生、御両名の先生には長きに渡り当医師会を支えていただき、誠にありがとうございました。今後も医師会のイベント等でお会いできることを楽しみにしております。新任の平安明先生、又吉宣先生、嶺井聡先生には大変お忙しい中のご就任に感謝いたします。今後、新生理事会として盛り上げていただける事と期待しております。

次いで、沖縄県医師会の田名毅新会長との懇談会の報告、第26回浦添市医師会学術奨励賞発表会・表彰式となります。本発表会は会員施設間の交流と親睦を目的とした発表会ですので、今後もより多くの施設にご応募いただきたいと思えます。会員ならびに会員施設職員の皆様には引き続きご協力を宜しくお願い申し上げます。

副会長 照屋 徹 (会員親睦・広報担当)

浦添市医師会報 2024年(令和6年)秋号 通算第95号

発行:一般社団法人浦添市医師会 発行人:洲鎌 盛一

〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖3-3-1 101

TEL:098-874-2344 FAX:098-874-2362

E-mail info@uraishi.or.jp ホームページ <http://www.uraishi.or.jp>

制作/株式会社スイッチ

2024年FM21「ゆんたく健康トーク」 出演予定表

(2024年9月～12月)

9月		10月	
9日	浦添市医師会事務局	14日	宮良クリニック
23日	介護老人保健施設エメロードてだこ苑	28日	マンマ家クリニック
11月		12月	
11日	調整中	9日	みやざと内科クリニック
25日	幸喜内科 糖尿病・甲状腺クリニック	23日	平安病院

ラジオ
番組

浦添市医師会提供

「ゆんたく健康トーク」

毎月第2・第4月曜日

午後8時～9時

月2回

FM21 (76.8Mhz) で好評放送中！

FM21「ゆんたく健康トーク」 ♪♪ 放送形態変更のご案内 ♪♪

「FM21ゆんたく健康トーク」は、
毎月第2・第4月曜日の午後8時からの放送です（月2回）。
会員施設のみなさまには引き続き
ご出演・ご視聴いただきますようお願い申し上げます。